
雨に濡れた桜

更紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨に濡れた桜

【Nコード】

N5012BA

【作者名】

更紗

【あらすじ】

お局OL、茜にいつもめんどくさい仕事を回してくる本庄課長。「能面課長」と呼ばれるくらい表情の無い彼と、苦手な地下倉庫で二人きりになってしまい・・・!?

第一話 能面課長とめんどくさい仕事

能面課長とめんどくさい仕事

桜の季節、なんていうものが喜べたのは、いくつまでの時だったろうか。

この歳になると、新入社員の歓迎会やら、研修会やらで頭を悩ませることしきりだ。

白沢 茜 しろさわ あかね 27歳。

短大を卒業し、二十歳で今の会社に入社して、もう7年になる。

世間では立派なお局だろう。

一緒に入社した同僚は順番に寿退職していった。

あたしにはそんな予定も、相手もない。彼氏なんてもう何年ないだろう。

あまり考えたくないくらい居ないかも。

それでも、それなりの努力というものはしているつもり・・・たぶんね。

ふう、とため息ひとつ。

ジリリリリッと、お昼休憩のベルが鳴る。

カタカタとパソコンを打っていた手を止め、財布を持って席を立った。

「白沢さん。」

お昼休憩で食堂にこうとしたところ、自分の名を呼ばれて、振り返る。

聞きなれた低めの声音と相変わらずの無表情にうんざりしながら、返事を返す。

そこには、見慣れた無表情な男性が立っていた。

どうせまた、言われることは決まってる。

「・・・なんでしょうか。本庄課長。」

用件はわかっているから、少し不機嫌そうな返事になる。

あからさまにはしていないけど、こちらの気分は伝わるくらいの強さで。

それなのに、相変わらずの能面課長は言葉を続けた。

少しは態度でわかると思うんだけど。嫌がってるんだってば。

「お昼の休憩、少しずらしてもらえないか。頼みたい事がある。」

ほらきた。まただ。もういい加減にしてほしい。

ふうつと、またため息。ああもう。どうしてくれるの。ため息一つにつき一つ幸せが逃げるんだから。

これでまた、あたしのご飯が遠のいたのね・・・。

人が不機嫌そうに返しても、全く動じない。気づいているくせに。

ここ最近ずっと、人が休憩に行こうとする度に、こつやって伝えにくるのだ。この人は。

ほんじょう　なおと
本庄　尚人

32歳。

私が担当している部署の、課長。まあ言えば上司ということになる。

去年の春、本社から突然異動してきた。

異動といっても、私みたいな平社員ならまだしも、課長クラスの人が移動なんてそうはない。

彼は、最近業績低迷気味のうちのセンターを、叩き上げるために派遣された特別要員らしい。

つまりは、仕事のできる人ってことみたい。

見た目もそれっぽい。

黒髪に細めのシルバーフレームの眼鏡。体格はしっかりしているのに、全体的にスマートな印象が、ちよつとインテリっぽく恐そうにも見える。

綺麗な顔をしているのに、切れ長の目が少し冷たい印象を与える人。

移動当初から、女性社員に「能面課長」とかあだ名がつけられているくらい彼は笑わない。

だから余計、冷たい印象を受けるんだと思う。

まあでも、女子の噂に上るくらいだから様はカッコイイのだ。表情は乏しいけど。

なんというか、仕事以外であまり人と関わらない。同性でも、異性でもそれは同じ。

誰だったか、総務の女の子やら他部署の女性社員何人が、誘っても全くなびかないと文句を言っていた。

よくもまあ、こんな無表情男を誘おうと思うもんだと、あたしは関

心するけど。

それでも、告白する女子が後を絶たないのは、その容姿と仕事の手腕故だろう。

まあ、この整った顔でやたらと愛想振りまかれたら、女子社員が騒いで煩そうだし、この人はこの方がいいのかもね。

「わかりました。少し用事があるので、それを済ませてから課長のところに伺います。それほど時間はかかりませんので。」

そんなことを考えながら、畏まった返事を返す。口調は相変わらず不機嫌そうに対応していたのに、本庄課長は表情を全く変えず、わかったと返事だけして踵を返した。

「っはあ~~~~・・・。」

ため息が出る。

また、友達とご飯が食べられず、お昼2時頃、誰もいなくなった食堂で、本庄課長と食事を一緒にする羽目になるのだろうか。

たぶん、決定だろう。

あの会話のない、ただしーんとした空間でもくもくと食事する居心地の悪さといったらない。

休憩するから休憩時間というのに、あれじゃあ休憩どころか疲れきって仕事に支障をきたしそうだ。

課長だって、私なんかよりもっと若くて可愛い新人の方がご飯もおいしくなるはずだ。

ため息をつきながら、一緒に食事する予定だった友達の部署へ、そうできなくなったことを伝えるに行った。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5012ba/>

雨に濡れた桜

2012年1月13日22時54分発行